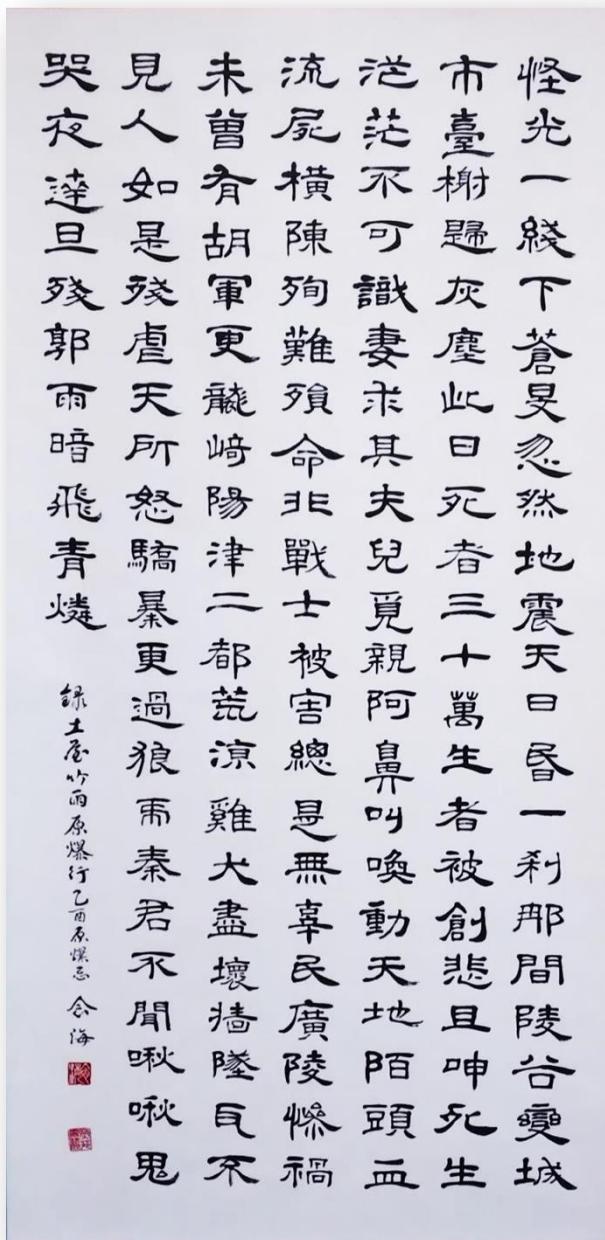


青龍亭書藝院展

~~ 青山念海 卒寿記念書作展 ~~

日時:令和元年8月3日~6日

場所:東広島芸術文化ホールくらら 回廊ギャラリー

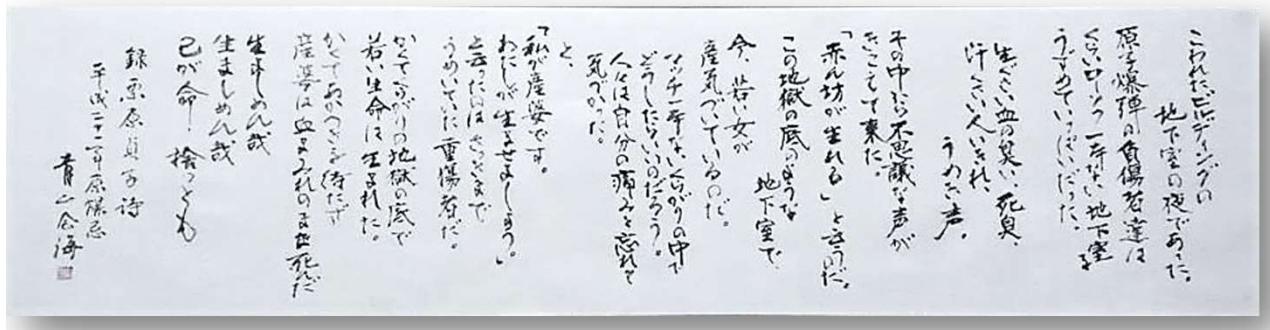


広陵II 広島 崎陽II 長崎

原爆行

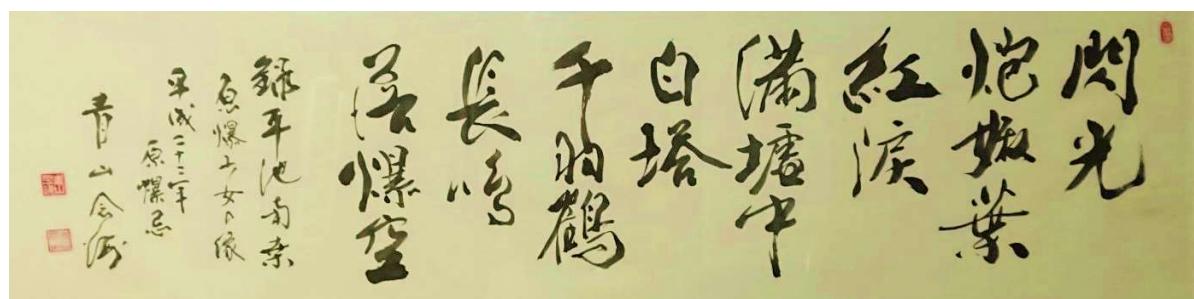
怪光一縷下蒼旻忽然地震天曰昏一利那間陵谷變
市臺榭歸灰塵此日死者三十萬生者被創悲且呻
死生茫茫不可識妻求其夫兒覓親阿鼻叫喚動天地
陌頭血流屍橫陳殉難殞命非戰士被害總是無辜民
廣陵慘禍未曾有胡軍更羸崎陽津二都荒涼難大盡
壞牆墜瓦人見是如殘虐天所怒驕暴更過狼雨秦君
不聞啾啾鬼哭夜旦に達し 殘郭雨暗くして青燐の飛ぶを
是の如き残虐は天の怒る所驕暴更に過ぐ狼虎の秦
君聞かずや啾啾たる鬼哭夜旦に達し 残郭雨暗くして青燐の飛ぶを
胡軍更に襲ふ崎陽の津二都荒涼鷦犬盡き壞牆墜瓦人見ず

土屋竹雨詩



こわれたビルディングの地下室の夜だった。
原子爆弾の負傷者たちは
ローソク1本ない暗い地下室を
うずめて いっぱいだった。
生ぐさい血の匂い死臭。
汗くさい人いきれ うめきごえ
その中から不思議な声が聞こえて来た。
赤ん坊が生まれる」とさうした。
この地獄の底で
地下室で
余告げ女が
産氣でてるのだ。
ピチニキなうのうのう。
どうしたうのうのう。
人々は自分の痛みを察して
死んでる。
マッチ1本ないくらがりで
どうしたらしいのだろう。
人々は自分の痛みを忘れて気づかつた。
余 若い女が産氣づいているのだ。
と「私が産婆です。私が生ませましよ」と言つたのは
さつきまでうめいていた重傷者だ。
かくてくらがりの地獄の底で
新しい生命は生まれた。
かくであかつきを待たず産婆は
生ましめんかな
己が命捨つとも
生ましめん哉
生ましめん哉
己が命捨つとも

栗原貞子詩



原爆少女の像

閃光 嫩葉を炮き
紅涙 墟中に満つ
白塔 千羽の鶴
長鳴す落爆の空

平池南桑詩

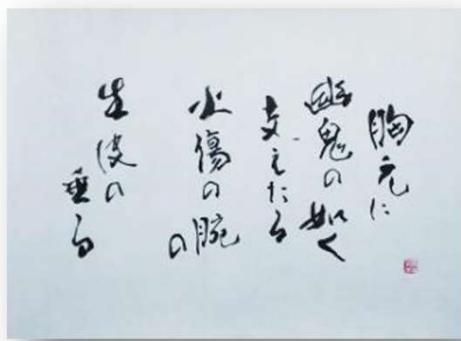
※注 嫩葉 どんよう
新緑の葉 わかば

原爆の閃光は若い人たちを一瞬で
焼き尽くし
の涙は 市街に満ちた

余 白い塔の頂に立つた少女はか
つて原爆が落とされたひろしまの
空へ自らが折った弦を高々ととか
げてている

広島平和記念公園内 原爆の子の
像は 原爆による白血病で亡くな
った佐々木眞子の同級生によ
り作られた





自詠

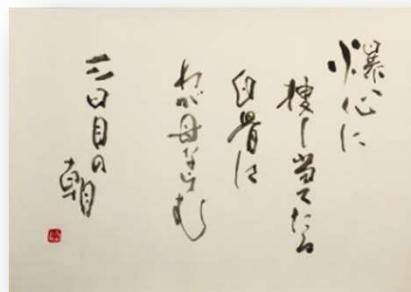
生火の
垂腕の
皮傷の腕
ののえのに
生皮の
重ら

幽胸
元
支えたら
幽鬼の聲
支えたら
胸元に

炎天に
連なり続く
地獄のさまの
宮島街道

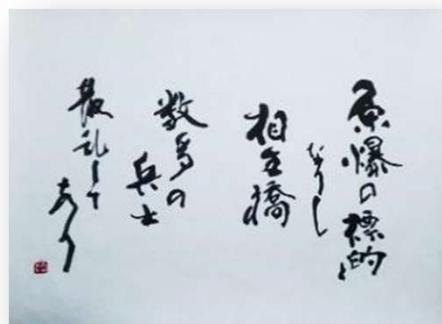
自詠

吾が母なら
三日目朝む
爆心に
捜し当てる
白骨は



自詠

心に
樓に當てたる
自骨は
わが母なら

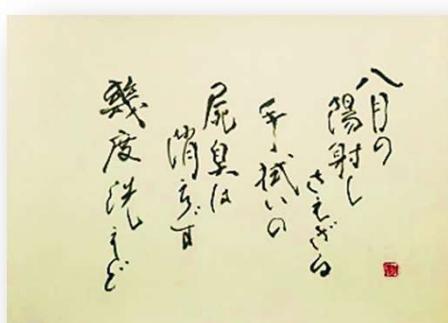
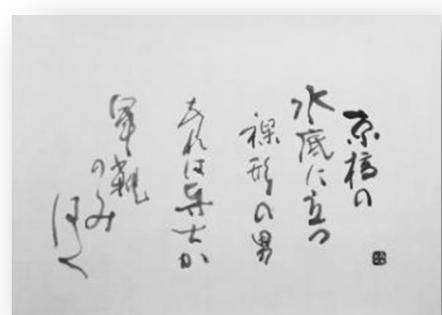


自詠

散幾なりと
乱多相りし
しの生橋
ありあり
兵士

原爆の標的
相手橋
原爆の標的

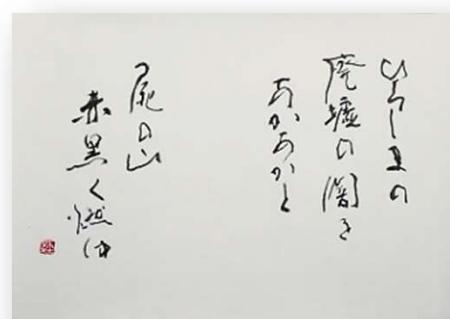
京橋の
水底に立つ
裸形の男
兵士は



自詠

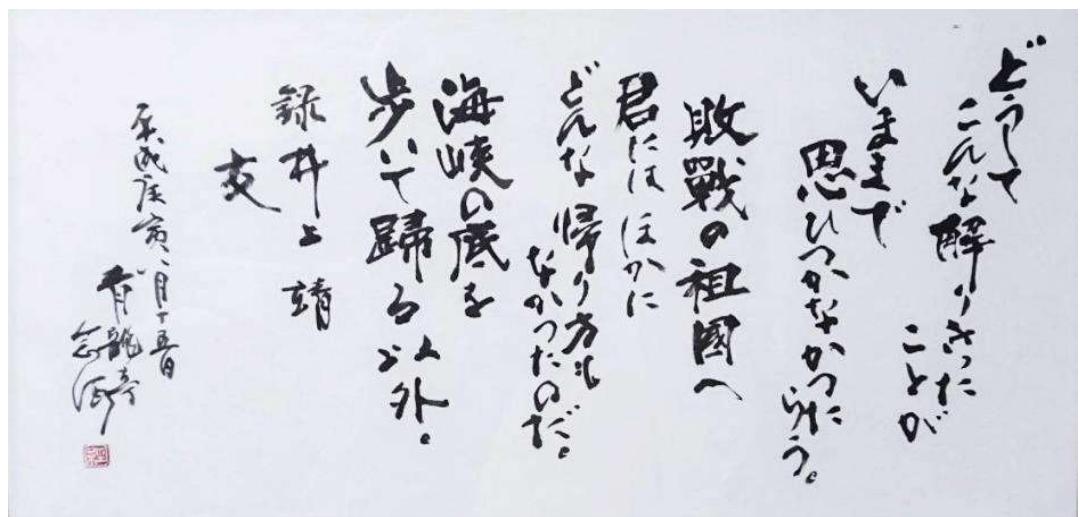
幾度洗ふ
尾臭は
度洗え
度洗え
度洗え
度洗え

八月の
陽射し
手拭いの
消えぎ
えぎる



自詠

ひろしまの
廢墟の闇を
あかと
赤黒く燃ゆ
尾の山



井上
靖詩

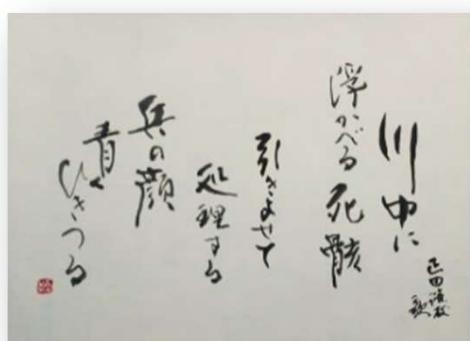
歩海など君敗思とこど
い峡かんに戦いがんし
てのつなはのついな解
帰底たは祖かまかり
るをか國なまかり
以外 だ方へなか
も たたかつた
たろう

友



正田篠枝詩

大き骨は
先生ならむ
そのそばに
骨頭の
あつまれりの
の



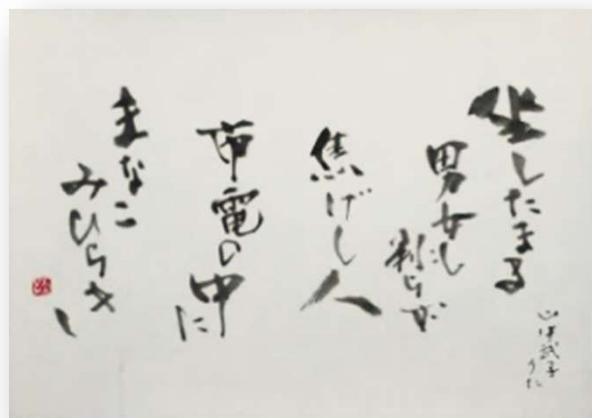
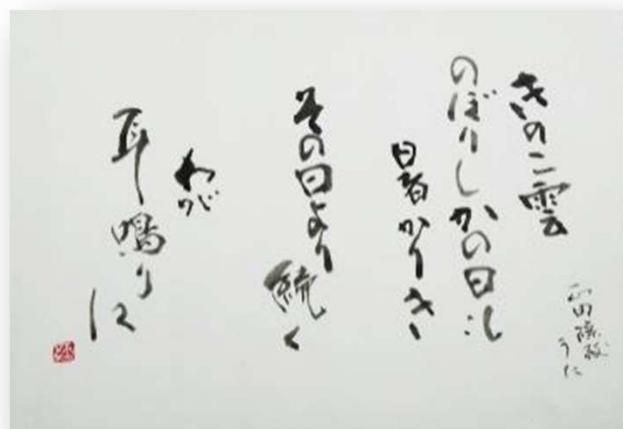
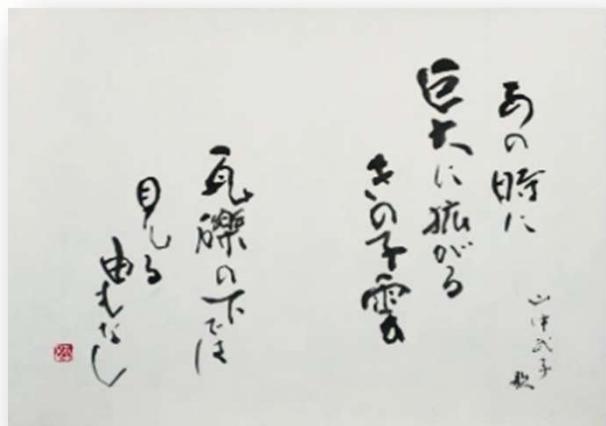
正田篠枝詩

青兵処理する
の顔を寄せて
くひきつる
川中引きべる死骸

子をひとり
し 我ればかり
得たる命と
泣き狂う



正田篠枝詩



あの時に
あの大に拡がる
瓦礫の下は
きの雲
と白い雲がある
きの子雲

山田武子詩

座したまま
男女も判らぬ
焦げし人
市電の中には
まなこ
みひらき

山田武子詩

銷兵鑄農器

今古歲方寧

錄杜子美詩平成二十二年原憲忌沙誠念海

銷兵鑄農器

古今歲方寧

杜甫 奉酬薛十二丈判官見贈

春種一粒粟，秋收萬顆子。
四海無閒田，農夫猶餓死。

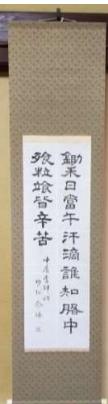
卷



李紳詩 農を憫む

春種一粒粟，秋收萬顆子。
四海無閒田，農夫猶餓死。

汗是禾下土，滴土潤我心。
誰知盤中餐，粒粒皆辛苦。



人能念佛佛還憶

善導大師『般舟讚』

人能念佛佛還憶

善導大師 謂讚 佛說三寶經中佛說經外大師所說

乃知兵者是凶器 聖人不得已而用之

乃ち知る 兵者是れ凶器にして
聖人は已むを得ずして之れを用ふ

李白 戰場南

乃知兵者是凶器
聖人不得已而用之

念洋

牛步到天

到天牛步

牛步到天

人能念佛佛還憶

光明遍照十方世界

云海

光明遍照
十方世界

念仏衆生
攝取不捨

念佛衆生攝取不捨

光明遍照
十方世界

觀無量寿

佛所遊履 國邑丘聚 麋不蒙化 天下和順 日月清明 風雨以時
災厲不起 國豐民安 兵戈無用 崇德興仁 務修禮讓

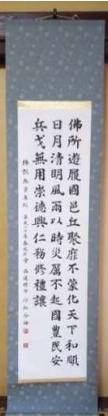
仏の教化の及ぶ所は その徳によつて人々は安らかに暮らし
軍隊も兵器も無用になる

『無量寿經』

佛所遊履國邑丘聚靡不蒙化天下和順
日月清明風雨以時災厲不起國豐民安
兵戈無用崇德興仁務修禮讓

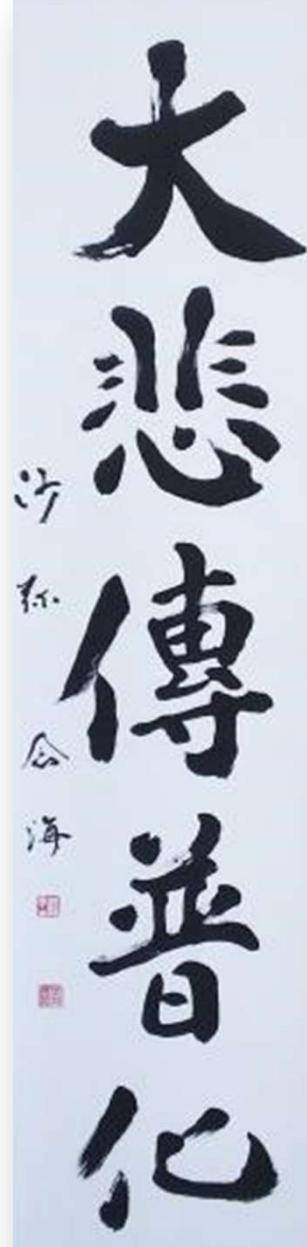
佛說無量壽經 平成二十年春彼岸會 西蓮精舍 沙弥念海

印



大悲伝普化 (だいひでんぶけ)

善導大師『往生礼讃』



微妙和雅 (みみょうわげ)

『無量寿經』



| | | |
|----|-----|-------|
| 葡萄 | 美酒 | 夜光杯 |
| 醉臥 | 欲飲 | 琵琶馬上催 |
| 古來 | 沙場 | 君莫笑 |
| 征戰 | 幾人回 | |

沙 俗念海

葡萄の美酒
飲まんと欲して琵琶
馬上に催す
醉うて沙場に臥すとも
君笑う莫れ
古来征戰
幾人か回る

夜光の杯
頻りに聞く鳴鳩
雨を截つ斜陽
半輪橋
勢い長虹に似たり

王翰「涼州詩」

疎雲変態蔽蒼穹
頻聞鳴鳩綠樹中
截雨斜陽流水上
半輪橋勢似長虹
疎雲態を変じ蒼穹を蔽ふ
頻りに聞く鳴鳩綠樹の中
雨を截つ斜陽流水の上
半輪橋勢似長虹
金子忠福「縮景園二十勝」

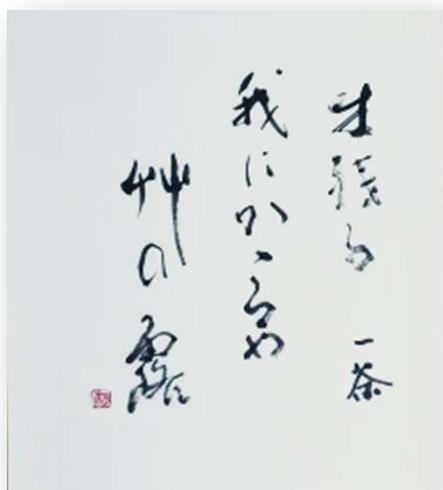
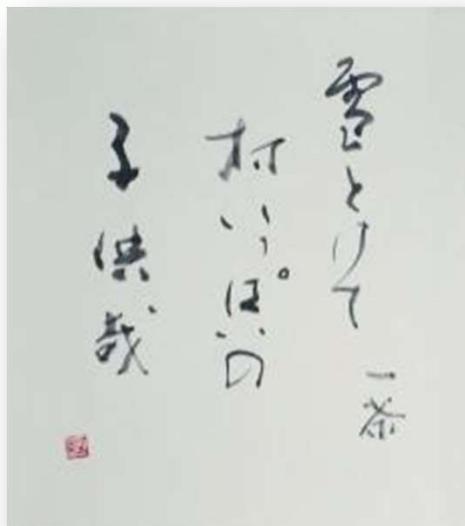
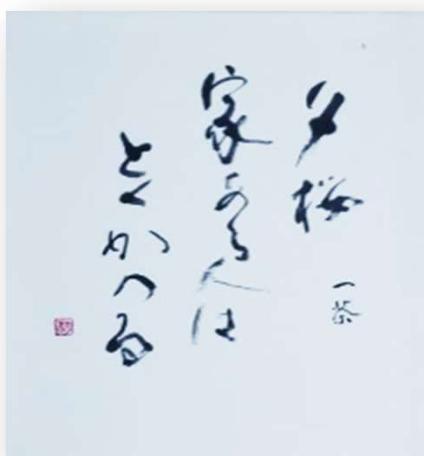
跨虹橋

錦堂雲變態
綠樹中截雨斜陽
流水上半輪橋
勢似長虹

金子忠福
縮景園二十勝
沙 俗念海

※注 金子忠福(榮山)は江戸時代 浅野藩の儒学者
藩の園亭現在の縮景園の跨虹橋を読んでいる





夕桜 家ある人はとくかへる
生残る 我にかかるや 竹の露
雪とけて 村いっぽいの 子供哉

《青山念海略歴》

昭和 4年 広島市の産業奨励館（現在の原爆ドーム）の東隣にあった
淨土宗 華臺山 西蓮寺の長男として出生。
幼名 香月経之介。書は父香月崇海に師事。

昭和 20年 旧制中学四年生、原爆の爆風を勤労奉仕先の工場で受ける。
爆心地の自宅は消失。母を失う。本人も被爆。

昭和 25年 広島師範学校卒業、豊田郡（現東広島市）の小学校に奉職。
その後、中学校教師として広島市内3校で教鞭をとる。
教科は国語・書道。また演劇部の顧問としても多くの生徒を
指導した。

昭和 62年 教職を退職した後、書道教室を開き、青龍亭書芸院主宰と
して東広島市の文化発展に貢献。平安書道会無鑑査。記念碑
や墓碑などの碑文の揮毫も多い。
東広島混声合唱団に入団。パートはベース。代表歴任。
現在最高齢団員。

一茶

